

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のかくかくドキドキ園立ててく4

国立市立国立第七小学校

平成29年3月7日 NO.98 (398)

オー君 「花ちゃん！学校のあちこちに黄色い花が咲き始めたね。」

花ちゃん 「黄色い花？・・・あれは、ナノハナよ。オー君、名前知らなかったの。」

オー君 「いいじゃんか。知らなかったって。」

花ちゃん 「ナノハナの名前くらい、しっかりと覚えてよ。常識よ。」

オー君 「そんなこといわなかったっていいじゃんか。」

モンタ博士 「どうしたの。二人ともケンカはだめ。仲良くしよう。」

花ちゃん 「でも、オー君がナノハナの名前を知らなくってもいいっていうんだもん。」

モンタ博士 「でも、まあ、黄色いきれいな花が咲きだしたことに気がついただけでもいいんじゃないかな。そうだ。今から仲直りするために、ナノハナの観察をすることにしよう。」

花ちゃん・オー君 「はい！わかりました。」

モンタ博士 「ところでさ、ナノハナはどうして咲いているの。どうして黄色い花なのかな。」

花ちゃん 「どうして咲いている？なぜ黄色？・・・そんなこといわれても・・・。」

オー君 「そんなの簡単だよ。虫を引きよせるためさ。」

モンタ博士 「そのとおりだね。学校のナノハナは、みんなで種をまいたじゃないか。だから咲いているけど、そもそも、植物が花を咲かせる本当の理由は、虫に来てもらい受粉して実をつけるためなんだ。」

花ちゃん 「あ！思い出したわ。そういう花をむずかしい言葉で、虫媒花というんですね。風によって受粉するのは風媒花ですね。」





モンタ博士「よく覚<sup>おぼ</sup>えているね。すごいね。」

オー君 「それで、アブラナやその他のいろ<sup>ほか</sup>いろ<sup>ちゅうばい</sup>な虫媒花は、みんなきれいな花<sup>はな</sup>を咲<sup>さ</sup>かせるんですね。つまり、自立<sup>めだ</sup>つためなんだ。」

花ちゃん 「自立<sup>めだ</sup>つ？そうか、そうだね。でも・・・自立<sup>めだ</sup>つためならもっと大きな花<sup>おおはな</sup>を咲<sup>さ</sup>かせたほうがいいんじゃないかしら。」

モンタ博士「なるほど、そのとおり。おもしろくなってきたね。それじゃ、もっとよく観<sup>かんさつ</sup>察<sup>し</sup>してみよう。何か気<sup>なに</sup>がつか<sup>き</sup>くことはないかな。」

オー君 「こうして見<sup>み</sup>ると、ナノハナって、たくさん咲<sup>さ</sup>いてるね。」

花ちゃん 「そうか。わかった。ナノハナは花<sup>はな</sup>は小さいけど、たくさん咲<sup>さ</sup>くことによ<sup>めだ</sup>って自立<sup>くふう</sup>つように工夫<sup>くふう</sup>しているんですね。ナノハナ畑<sup>はたけ</sup>という言葉<sup>ことば</sup>もありますね。」

オー君 「なるほど。そういうことか。よくわかったね。でも、どうして畑<sup>はたけ</sup>にするくらいたくさん植<sup>う</sup>えるんだろう。」

モンタ博士「それはちょっと、むずかしいけどね、ナノハナという植物<sup>しょくぶつ</sup>は、その種<sup>たね</sup>から油<sup>あぶら</sup>を取<sup>と</sup>るために植<sup>う</sup>えるんだ。」

オー君 「あぶら？アブラ？油<sup>あぶら</sup>・・・？」

モンタ博士「ナノハナの種<sup>たね</sup>をしば<sup>つく</sup>って作る油<sup>あぶら</sup>で、菜種油<sup>なたねあぶら</sup>というんだ。」

花ちゃん 「いろい<sup>しょくぶつ</sup>ろと植物<sup>せわ</sup>にはお世話<sup>せわ</sup>になっているということですね。」

オー君 「最後に、ナノハナが黄色<sup>きいろ</sup>いというのは、どうしてなの。」

モンタ博士「それはね、ナノハナが咲<sup>さ</sup>く季節<sup>きせつ</sup>と関係<sup>かんけい</sup>があるんだよ。」

花ちゃん 「季節<sup>きせつ</sup>ですか・・・そういえば、春<sup>はる</sup>には黄色<sup>きいろ</sup>いお花<sup>はな</sup>がいっぱい  
ですね。春<sup>はる</sup>の色<sup>いろ</sup>といたらやっぱり黄色<sup>きいろ</sup>ですね。」

オー君 「そういえば、タンポポも黄色<sup>きいろ</sup>だね。」

モンタ博士「春<sup>はる</sup>になり一番<sup>いちばん</sup>早く活動<sup>かつどう</sup>をする虫<sup>むし</sup>と<sup>なに</sup>いえば、何<sup>なに</sup>かなオー君。」

オー君 「それはアブの仲間<sup>なかま</sup>ですね。そうか！アブが好きな花<sup>すはな</sup>の色<sup>いろ</sup>  
は黄色<sup>きいろ</sup>なんだ。それで、ナノハナは黄色<sup>きいろ</sup>なのか。」

モンタ博士「花<sup>はな</sup>の色<sup>いろ</sup>は、それを好きな虫<sup>すむし</sup>との関係<sup>かんけい</sup>から決<sup>ま</sup>ると、いろい<sup>いろ</sup>ろな研究<sup>けんきゅう</sup>からわか<sup>わ</sup>かってきているんだよ。」

